

令和4年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標をもち、また、その向上への意欲を高める。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

**令和4年度 矢田西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	理科	国語	数学	理科
3年	学校	33	65	49	48	3.9	10.3	3.9
	大阪市	—	66	50	46	5.5	12.2	4.4
4月19日	全国	—	69.0	51.4	49.3	4.3	10.8	3.4

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	31	53.9	57.5	58.6	54.3	53.2	11.9	3.8	7.0	4.4	4.0
	大阪市	—	53.4	54.7	54.9	55.8	53.7	11.9	4.3	9.4	5.3	6.8
	大阪府	—	53.8	55.4	56.0	55.9	54.2	12.1	4.6	9.6	5.8	7.1

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
3年	学校	31	100.5	97.7	166.3	95.1
10月19日	大阪市	—	102.8	105.7	152.4	96.5

令和4年度 矢田西中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○ 令和4年度大阪市英語力調査(GTEC)

<成果>

当該学年の生徒には、第2学年次に授業でライティングの練習を取り入れ、本年度の定期テストにおいて出題することにより、英作への抵抗感を少なくした。生徒は苦手ながらも自分の知っている語を用いて最大限の表現をする習慣がついた。

結果、書くこと【ライティング】で13. 9ポイント大阪市の平均スコアを上回ったが、読むこと【リーディング】で2. 3ポイント、聞くこと【リスニング】で8ポイント、話すこと【スピーキング】で21. 4ポイント大阪市の平均スコアを下回る結果となった。令和3年度と比較すると、すべての技能で上回る結果となった。また、英検3級以上の力をCEFR[A1]以上とすると、3年生の48. 4%が到達し令和3年度より15. 3ポイント上昇した。

<課題>

スピーキングの力が弱いことから、授業初めに取り入れている、スマールトークの方法を見直す必要があり、即興のやり取りを多く取り入れ、スピーキングの技能を高めていく。

【今後に向けて】

4技能のバランスにはらつきがあり、授業で各スキルの向上を目的にした活動を取り入れていく。また、各時において1つのスキルをテーマにしていくことで、生徒の持続する力を伸ばしていく。

また、C-NETを活用し、特にスピーキングを伸ばすために、即興性のあるやり取りを学習していく。

令和4年度 矢田西中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—